

音源の比較試聴(2)
—スメタナ我が祖国—

1. 始めに

前報(1)に引き続き、各種音源の再生経路に関する種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

どのような対策がアナログアキュライザーの導入以降に各再生経路についてなされたかは、前報(1)のとおりです。

今回のアナログ再生では、前報(1)の LINN LP-12 に替えて TohrensTD124 を使用しますが、ターンテーブルアキュライザーを使用し、アームには手芸用フェルトのアームダンパーをセットし、アームとフォノケーブルは CD クリーナーで処理しています。また、アナログ盤は再生前に CD クリーナーの処理を行います。

音源は各種フォーマットのスメタナの交響詩我が祖国で、モルダウを主に試聴していきます。

ベドルジーハ・スメタナ 交響詩《わが祖国》

アナログ

ACE of Diamond SDD 161

ラファエル・クーベリック指揮ウイーンフィル

ドイツグラモフォン 419 111-1

ラファエル・クーベリック指揮ボストンシンフォニーオーケストラ

ACCENTUS MUSIC KKC 1171/3 (45 回転ダイレクトカッティング盤)

ヤクブ・フルシヤ指揮バンベルク交響楽団

STAGE+

セミヨン・ビシュコフ指揮チェコ・フィルハーモニー

ベルリンフィルデジタルコンサートホール

ダニエル・バレンボイム指揮ベルリンフィル

3. 音源の比較試聴の試聴結果

アナログのクーベリック指揮ウイーンフィルは、古い録音のようですが、ウイーンフィルらしい弦の美しさが感じられます。

アナログのクーベリック指揮ボストンシンフォニーオーケストラは、盤質はあまりよくありませんが、ボストンシンフォニーらしい緻密で響きの良さは伝わってきます。

アナログのフルシャ指揮バンベルク交響楽団は、45回転ダイレクトカッティング盤であり、繊細なピアニッシモから炸裂するフォルテッシモまでのダイナミックレンジが、前の2盤と大きく異なり、ダイレクトカッティングの鮮度感の威力を見せてくれます。

STAGE+のビシュコフ指揮チェコ・フィルハーモニーは、2020年の本拠地での収録で、スメタナと言えば、チェコ・フィルというくらいの東欧の牧歌的な抒情性をたたえた定番の演奏です。

ベルリンフィルデジタルコンサートホールのバレンボイム指揮ベルリンフィルは、これも2020年の本拠地での収録で、ベルリンフィルらしい構成のしっかりした演奏です。

4. まとめ

上記のとおり、それぞれの音源と再生経路について対策の効果が確認されました。とりわけ、ダイレクトカッティングのアナログ盤は、これまでの対策の積み重ねで真価を発揮したと言えますし、STAGE+とベルリンフィルデジタルコンサートホールの配信も、比較的近年の収録であり、LAN受信ラインの対策が功を奏し、配信の概念を変えるような音質になっています。

以上